

# 湾岸諸国における海外分校質保証の特質に関する研究

## 論文要旨

中島悠介

平成31年（2019年）

## 論文の要旨（5966字）

高等教育サービスが国境を越えて提供され、「サービスの貿易に関する一般協定（GATS）」をはじめとした国際的な共通化をめざす協定と、各国政府や関連機関による規制という大きく2つの枠組みから制度が形成される中で、そうした「国境を越えて展開する高等教育の質はいかに保証されるのか」という「質保証」の問題がある。国境を越える高等教育に関わる質保証については、各国政府により設置される質保証機関に加え、2001年にユネスコ/OECDが設定した『国境を越えて提供される高等教育の質保証に関するガイドライン』のように、国際的に共通性を向上させようとする動きもある。

本研究で対象とするアラブ首長国連邦（UAE）とカタール国（カタール）は、中東湾岸地域に位置しており、外国高等教育機関の分校（海外分校）が多く展開している国ぐにだが、上記のGATSの枠組みには含まれず、高等教育部門における貿易の国際的な自由化の流れとは異なる文脈が存在することが看取される。その理由は、こうした高等教育部門の貿易自由化の国際的な枠組みが、国家の教育政策の展開に対する自らの自由を制限しかねないという性質に起因している。これらの国ぐにでは海外分校がどのような原理で発展しているのか、また、国境を越えるサービスへのルールの国際的な共通化が進む一方、ローカルな制度的な枠組みが形成される中で、それらの間でどのような衝突や調整の状況が生まれているのだろうか。こうした問題関心から、本研究は①海外分校の展開状況、②海外分校の提供国やプロバイダーによる質保証、③海外分校の受入国における質保証の取り組み、④提供国・受入国における質保証に関わるアクター間の衝突や調整という、4つの視点を設定したうえで、UAE（連邦）、ドバイ首長国（ドバイ）およびカタールにおける海外分校への質保証にどのような特質や異同が見られるのかを検討し、また、分校の質保証にどのような調整や衝突の様相が見られるのかを考察することで、この地域の海外分校質保証のあり方を明らかにすることを目的とした。

海外分校の質保証について国際的に共通化されたり、提供国の質保証が国境を越えて海外分校に影響を及ぼしたりする中、分校の受入国の質保証制度との調整や衝突といった観点から考察することで、高等教育制度の展開を国際化と

地域化の両側面から捉え、また、それらが海外分校の質保証にどのように表れてくるのかを明らかにできる点でも意義がある。

本論文の構成は、大きくは次のとおりである。第1章では本研究の分析枠組みを検討し、また、湾岸諸国における海外分校の展開状況を概観した。第2章では UAE の連邦立大学における質保証制度の展開と国家的な動向を検討した。第3章から第5章では UAE（連邦）およびドバイにおける海外分校質保証の制度的展開と海外分校の事例を、第6章ではカタールにおける海外分校質保証制度と海外分校の事例を分析した。そして、第7章から終章にかけて総合的な考察を行い、湾岸諸国における海外分校質保証の特質を明らかにした。

第1章では、Van Damme（2002）の国境を越えて展開する高等教育の質保証モデルを参考にし、本研究の枠組みとして質保証のあり方に関する「4つのモデル」を設定したうえで、それらを「国家適用志向」から「国際的共通化志向」に配置した。また、湾岸諸国において海外分校の量的な拡大が進んでいる状況とともに、各国で分校の展開状況が異なっている様相を示した。

第2章では、UAEにおける国家レベルでの質保証制度の動向を明らかにするために、連邦立大学に関わる質保証制度の展開について検討した。湾岸諸国では第三者質保証機関の整備が進められているが、多くの湾岸諸国では国立大学は国家セクターに近い特別な位置づけを持ち、第三者質保証機関による評価が行われてこなかった。本章で事例として取り上げた UAE 大学についても同様、国内の第三者質保証機関による評価が行われていないが、内部質保証の改革を進めるとともに、国家資格枠組みとして「エミレーツ資格枠組み」を適用して学位に対する学習成果を設定し、それに沿ったプログラム評価の仕組みを整備することで、国立大学も緩やかに国家の質保証制度への統合が進められていた。

第3章では、国家的な質保証の適用が免除されるドバイ首長国（ドバイ）の経済特区（フリーゾーン）で展開する海外分校に対して、どのような質保証制度が整備されてきたのかを検討した。連邦政府の高等教育研究省が設置した第三者質保証機関である学術・適格認定委員会（CAA）による適格認定が UAE 国内で義務づけられているものの、連邦レベルの規制が適用されない各首長国が設置するフリーゾーンではその適用が任意となっている。ドバイのフリーゾーンでは、CAA に対して首長国独自の質保証機関として大学質保証国際評議会

(UQAIB) を設置し、海外分校は2つのうちからいずれかを選択しなければならない。本章では、それぞれの質保証制度が展開してきた経緯を示すとともに、CAA が UAE 国内のローカルな要素（イスラームなど）を適用し、1個の高等教育機関として分校に適格認定を行う「国家・地域統合モデル」として特徴を持っていることに対し、UQAIB が提供国における質保証や本校からの関与を前提に、本校と分校がいかに同等性を維持する取り組みを行っているかを監査する「同等性承認モデル」としての特徴を持っていることを明らかにした。

第4章では、UAEの海外分校の主要な受入地域であるアブダビ首長国（アブダビ）とドバイに焦点を当て、質保証の規定が海外分校の管理運営構造や機能にどのように表れているのかを明らかにした。連邦レベルの質保証機関としてCAAが大きな役割を果たしているものの、分校の展開にはドバイやアブダビといった首長国レベルの関与が強く見られる。各首長国に立地する海外分校の管理運営構造について事例的に検討した結果、いずれの分校でも教学面では本校を主導とした関与が見られたものの、経営面では公的資金や人材を投入して首長国政府が強く関与しようとするアブダビ、できるだけ現地のアクターの関与を排除しようとするドバイ、そして、分校を1個の高等教育機関として捉え、自立的に展開することを認めながら、現地企業や首長国といったアクターが補助的に関与する連邦（CAA）というような違いが表れていた。

第5章では、提供国と受入国の質保証制度が海外分校の運営に対してどのように表れてくるのかを明らかにするために、インドからドバイに進出している海外分校の展開を検討した。ドバイのフリーゾーンではCAAかUQAIBのいずれかの質保証機関を選択するが、海外分校は提供国の質保証機関からも影響を受けることが想定される。インドの高等教育機関に焦点をあて、提供国の質保証制度を概観した後、それらが分校の運営にどのように表れてきたのかを考察した。その結果、受入国（UAE）のローカル性を特に重視する「現地適応志向」、提供国と受入国のバランスを考慮しながら展開する「提供国—受入国バランス志向」、提供国でも受入国でもない第三国の制度に基づいて展開する方向に転換した「グローバル展開志向」の3つのあり方が確認され、提供国・受入国の質保証制度の多様な組み合わせを選択できることが、海外分校の展開の多様性につながっていることを示した。

第6章ではカタールに焦点を当て、海外分校を含めた国家的な質保証制度の展開について概観した後、海外分校における質保証の取り組み状況を検討した。カタールでは非政府機関でありながら資金面・組織面で王族が含まれる点で公的な性格が強いカタール基金が欧米諸国の有名大学を誘致しているが、それらの分校はカタール国内の第三者質保証機関である最高教育評議会による適格認定を受けずに展開しており、その質保証は提供国の質保証機関や専門団体による適格認定に依存している。一方で、最高教育評議会による適格認定は、ごく少数のカタール基金とは無関係な海外分校に対して行われていた。また、一般的には最高教育評議会による適格認定を通して国家的な認証を得ることができるが、カタール基金より誘致されている分校は自動的に認証され、カタール人への授業料無償や奨学金、公的機関への就職といった形で大きな役割を果たしていた。その中で、分校における質保証の取り組みでは、多方向からの質保証の要求に対応するとともに、それらは本校一分校間を中心とした綿密なコミュニケーションにより支えられていた。

第7章では、提供国・受入国の視点から海外分校に対する質保証の制度や取り組み状況を整理した上で、UAE（連邦）、ドバイ、カタールにおける海外分校の質保証の仕組みを比較検討した。これらの地域ではある程度共通の傾向として、分校の質保証において本国の質保証機関や本校による関与が見られたものの、それらに対する現地の質保証機関のあり方については相違点があった。特に、国家としての質保証を特に重視ししながらも国際的な連携を強め、本校一分校間の同等性を重視しないようなUAEの連邦レベルの質保証に対し、国家的・地域的な質保証の枠組みには含まれず、本校一分校の同等性に評価の重点を置くドバイ、国家的・地域的な質保証制度よりも提供国や本校による質保証に特に依存しているカタールなど、それぞれの国・地域において海外分校質保証あり方に異同が見られることが明らかになった。

終章では、第7章で明らかになったUAE（連邦）、ドバイ、カタールにおける海外分校質保証の特質を整理するとともに、それらをもとに海外分校の質保証のあり方を検討した。国境を越える高等教育の質保証について、McBurnie and Zigras（2007）はすでに一定の成果が上がっている世界標準の規則を適用することで、質保証のアクターの目的の遂行はよりスムーズになり、国境を越える

高等教育の質保証においても、国際的な制度的展開に十分な収斂性があることを指摘している。各国が国際基準に沿って質保証制度を展開し、評価の重点や方法についてグローバルに収斂していくということは、ある面では正しいし、実際に湾岸諸国の海外分校への様々な質保証制度もある程度共通化された手法を用いて行われている。一方で、Marginson (2011) は、このような国境を越える高等教育の質保証については、国際的な流動性を考慮した共通の枠組み・手順を求めるという収斂性・均一化の流れと、国家やローカルな次元においてより多様性や特殊性をもたらすことを理論上、指摘しており、国際的な均一化・共通化の流れとローカルな多様化・特殊化の流れが同時に起こりうる。

こうした多様化の状況を Van Damme (2002) の4つモデルを参考にしてより具体的に検討すると、UAE (連邦)、ドバイ、カタールそれぞれの地域において、海外分校を取り巻く質保証のアクターが多様なあり方で展開していることが明らかになった。そのような動向は、それぞれの海外分校の受け入れ地域において高等教育機関の質を保証するための機関や、質に関与する組織が整備されてきた結果とも捉えられる。従来、本校および本国の第三者質保証機関、国際的に展開する専門団体が海外分校の質保証を行ってきた状況に対し、受け入れ地域として高等教育の質保証制度の整備を進める中で、その対象を海外分校へと拡大しようとするプロセスの中にある。それは、これまで提供国や欧米諸国主導で海外分校の質を保証してきたことに対し、湾岸諸国内の公的・民間セクターが資金面・設備面などでスポンサーとして関与し、また、イスラームや国民優遇、在住外国人の受け入れといったローカルな文脈で重視される価値観を考慮する形で、受入国としての高等教育機関の質のあり方を反映させようとしているとも捉えられる。ただし、この地域における質保証の制度的な枠組みにおいて国際的な共通性を志向の弱さが見られ、それぞれの質保証のアプローチ、また、単位互換や学位の相互の認証といった質保証制度上の連携やネットワークが考慮されておらず、海外分校自体がその質に関与するアクターによる多様な取り組みや要求に対して調整を行っている状況にある。

このように、質保証に関わるアクター間の関係性が形成されないままに、分校自体が個別のアクターにより提供される質保証のアプローチをつなぎとめ、複層的な質保証の関与を維持するために連絡・調整を行うという「リエゾン・

ロール」としての性質を備えていることが、海外分校の質保証のあり方として捉えることができる。そこでは様々な部局間において、時には衝突するような主張や見方をまとめるような機能を果たしている。海外分校は受入国や提供国、専門団体の質保証機関に挟まれる形で多方面から質に関する介入を受けながら、それらを他方の要求とすり合わせを行う形で分校としての質を構築しているといえる。

< 参考文献 >

Gittel, J.D. 'Organizing Work to Support Relational Co-ordination.' *International Journal of Human Resource Management*. vol.11, Issue.3, 2000, pp.517-539.

Marginson, S. 'Strategizing and Ordering the Global.' King, R., Marginson, S. and Naidoo, R. (eds.). *Handbook on Globalization and Higher Education*. Cheltenham: Edward Elgar, 2011, p.407.

McBrunie, G. and Zigras, C. *Transnational Education: Issues and Trends in Offshore Higher Education*. Abingdon: Routledge, 2007, pp.132-133.

Van Damme, D. *Trends and Models in International Quality Assurance and Accreditation in Higher Education in Relation to Trade in Education Service*. Washington: OECD, 2002, pp.1-51.